85. 甲状腺疾患の症状の統計的研究

大阪医科大学付属病院　放射線科
吾妻　康彦　　泉　昭太郎　　中明　孝夫
新井　正典　　福森　英雄　　赤木　弘昭

甲状腺疾患の診断には，一般的症状でその疑いのある患者を選び出し，続いて甲状腺 ^{131}I 摂取率，BMR 等の検査を行ない診断の確定を行なうのが普通である．この場合の前段階選別には半ば医者の主観的な選別によるために余りに神経質になり軽微な症状を有する者までも検査し膨大な数となり検査が粗雑化する恐れがある．

従って甲状腺疾患の診断には，まづ自覚および他覚症状を正確に集めそれを客観的に判定する必要がある．

この一方法として統計学的に症状から疾患を推定する Bayes の方法を用いた．

対象は昭和42年1月～昭和45年5月まで本科外来および入院甲状腺患者でその約1,000例について検討した．すなわち症状および症候と甲状腺 ^{131}I 摂取率，^{131}I-T_3 レジンスポンジ摂取率，BMR 等の統計を行ない，各々の出現頻度を計算し，相互の関係と検討した．更にその組み合わせ方による出現率を計算した．その結果より新しく患者が発生した場合の診断の確率を計算した．

統計の対象となった症状および症候としては次のごとくである．すなわち甲状腺腫，前頸部圧迫感，心悸亢進，頻脈，徐脈，神経質，不安感，精神活動の遅鈍，嗜眠症，緩徐な言語，記憶力減退，全身倦怠感，息切れ，易疲労感，咽喉頭炎症状，嚥下困難，多汗症，発汗減少，色素沈着，皮膚乾燥粗造化，皮膚蒼白，眼球突出，寒さに対する抵抗の低下，体温低下，饑餓感，体重増加，体重減少，浮腫，脱毛，便泌，下痢，振顫，月経不順等である．

過去の結果から疾患の発生率とその疾患の症状の出現率が解っておればこれを利用してある症状群を有する患者の鑑別診断がその疾患の起りうる確率として計算され，それを知ることで特殊検査の有効性を多大にしうることを証した．

86. ^{3}H-thymidine による甲状腺上皮細胞の増殖に関する研究（第3報）
正常ラット甲状腺上皮細胞の generation time について

信州大学　第2外科
宮川　信　　小池　綏男　　飯田　太

われわれは一昨年の本会総会において正常ラット甲状腺の沪胞上細胞の増殖動態ならびに沪胞の発育過程について述べたが，今回は甲状腺沪胞上皮細胞の generation time (tG) について検討したのでその成績を報告する．

まず，甲状腺の沪胞上皮細胞は核分裂像の頻度がきわめて低く，tG の長いことが想像される．また前回報告した成績からも明らかなごとく，generativie cell と maturative cell との分布状態を光顕的に識別できないので，mitosis chase method によって tG を測定することは困難である．そこでわれわれは cumulative labeling method を用いて甲状腺沪胞上皮細胞の tG を測定したが，MI から想像されるごとく他臓器の上皮細胞系に比較してかなり長い tG をえたので報告する．また cumulative labeling method の理論的ならびに実際上の問題点についても論及する．

87. ^{75}Se-Selenomothionine による Hyperparathyrodism の Scintigram の1考察

日本鋼管病院
三本　重治　　増岡　忠道　　小林　信正
綱島　健一

1962年 Digiulio らにより犬の副甲状腺に radiocyanocobalamine (^{57}CoVB$_{12}$) が摂取されることが報告され，続いて Potchen は methionine が rat の副甲状腺に集まることを示し，また Digiulio, Haynie, Sisson らが ^{75}Se-selenomethionine を用いて副甲状腺の scintigram の可能なことを報告した．^{75}Se-selenomethionine は単位重量当りでは甲状腺組織の2～3倍副甲状腺に取り込まれるといわれているが，前頸部では副甲状腺のみならず，甲状腺，筋肉，血液等にも高い放射能を示すため，Digiulio, Haynie らは前処置として高蛋白食，低カルシウム食を与え，さらにtriiodothyronine (T_3) 25～300μg を週間前後与えて scan を試み，臨床に供する scintigram をえているが，本邦においては成功例は極めて少ないといわれている．私共も secondary hyperparathyroidism と思われる症例に ^{75}Se-selenomethionine による scan を試みたのでその scintigram を供覧し，併せて前処置の必要性，注射量，scan 開始時間，scan 手技の比較検討を試みたので報告する．

Presented by Medical*Online